

これからの学認

1. クリティカルマスに向けて(来年が勝負の年)
 1. 国立大学だけでなく、公立や私立への普及
 2. 国内サービスプロバイダーへの積極的な呼び込み
 2. トラストフレームワークの構築
 1. eRad、HPCI、OpenID連携によるサービス拡大(学割サービス等)
 2. 学認を日本のID連携基盤のベストプラクティスに
- 
3. 本格的な事業化に向けて
 1. NII内部に学術認証連携推進室を設置(室長: 安達)

今回の企画は、6月8日 15:00ー17:00

NIIオープンハウス企画セッション(NII1階特別会議室)

「学認にまつわる仕様書の書き方と調達の仕方」

